

# アップス 座談会

アップスをよく利用している若者6名に集ってもらい、サイコロトークの形で座談会を開催。トークテーマは、「あなたにとってアップスとは」「アップスのここを直してほしい」「もしあなたがセンター長になったら」「今だから言います！じつは…」「アップスでの出会いを教えてください」「10年後のアップスは」と予め若者の本音を聞いてみたいと思う内容を設定し、順番にサイコロを振って出たテーマで思い思いに話をしてもらいました。

## 若者はアップスを「こんなふうに思っている。」

若者から「アップスは第2の家」「いろいろな人と出会える場所」「やりたいことを個人もしくは、みんなのできる場」といった言葉が聞かれました。

ある若者は、「アップスを初めて利用した頃は、勉強をしに来る場所という思いで来ており、誰とも話さないだろうと思っていた」とのこと。しかし、来館を重ねるにつれ、まず職員との関わりが増え、距離も近くなり、そこから新しい人との「つながり」「出会い」が生まれたと話してくれました。

また別の若者は、「アップスができる前は演奏したくてもやる場がなく、また表現するところもなかった」「気軽に時間を過ごせる場所ができてよかった」と、気持ち的にも行き来しやすい場として認識し、利用してくれているということを知る機会になりました。

## 「アップスのここを直してほしい。」

「プールがほしい」「緑を増やしたり、イチゴなどの果物の栽培



ができればいい」「芝生があれば外で寝っ転がることもできる」などの意見があり、テラスを活用することに高い関心がありました。更に、「生き物を育てたい」との意見もありました。

水槽や、テラスで飼育できる生き物など、癒しとなる環境もあればよいと感じているようです。

その他の意見として、学習室や、多目的ホールの卓球のようにルールが決まっているところはみなルールを守って使用しているが、交流スペースは決まりごとがなく、周りのことを気にしないで騒いで過ごす若者も見受けられるとのこと。利用の仕方が自由であることから、時には YouTube などの動画を撮影している若者も…。自分のことを発信するのは良いが、周りには配慮してほしいとの思いがあり、「動画の撮影に関してはルールがあるとよい」との意見が聞かれました。

## アップスの今後について

若者から話を聞く中で、「ここでしかやれない企画」をまだまだ若者は心に抱えているのだなと思いました。例えば、「風景を撮ったりすることに興味があるからプログラミングや映像制作の人を呼んで、話を聞いてみたい」「お泊り会などに海外の人も来てくれれば、直接外国の人と接するきっかけになる」とアップスを通して、「新たな出会い」や、「つながり」を求めている若者が多くいるようでした。こうした声をもっと拾い上げ、企画に結び付けることが大切であると感じました。

(記録：ユースワーカー 阿部)

# アップス PRESS

特別号  
March 2020

## 多様な若者の居場所

希望丘青少年交流センター「アップス」の最も大きなミッションは、多様な若者が自分らしく過ごせる居場所となること。そして、何かやりたいことを見つけた若者が、主体的に取り組むことを応援することです。2019年2月に開館した頃は、若者からはまだまだ居場所としての認識は高くなく、何か物珍しいものを見に来るといった雰囲気もありました。4月を過ぎた頃から、少しずつ居場所として利用する若者が増えたように感じます。小学生が想像以上に多かったこともありましたが、利用の中心は中高生世代で、午後6時になると「ここからは我々の時間だ」と笑顔で話す姿が印象的でした。元気に見える若者に混ざり、学校に足が向かない若者、何か悩みを抱えた若者もあり、その多様性がアップスの1つの特徴であり、しっかりと支援も行いたいと思います。



## 2020年度事業計画

※ 現段階での予定であり、変更する場合がありますのでご了承ください。

2020年4月	5月	6月	7月	8月	9月
	●宇奈根の渡し青空市(中止)		●希望ヶ丘団地夏祭り		●風太郎フェスティバル
				●アップス縁日	
●スポーツプログラム/楽しい食卓プロジェクト/アクション/P-work/P-farm(通年)					
10月	11月	12月	2021年1月	2月	3月
	●船橋ふれあいまつり				●アップスフェス
	●船橋児童館子どもバザール			●のげ青フェス	
●せたがや大人図鑑/クリエイターワーク(隔月)					



## 「やりたい」を応援する

若者が「やりたい」ことにチャレンジできるよう、アップスが主導するプログラムは極力少なくしています。事業計画の段階では余裕のあった予定表も、1年が終わってみると、多くの、そして幅広い活動が生まれました。今後も、若者の主体性を支えていくことで、今の若者に必要なさまざまな活動が生まれていくと信じています。

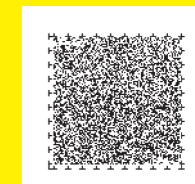


- P-work: カフェを活用した就労体験・支援プログラム。研修を修了すると、6か月を上限に就労が可能。(対象: 義務教育修了者~39歳)
- P-farm: テラスにある畑を活用した就労支援プログラム。定期的な活動で生活リズムを整えるとともに、畑作業や昼食を通じてグループ活動を体験する。(毎週金曜日/対象: 義務教育修了者~39歳)
- せたがや大人図鑑: 多様な価値観を持つ大人との出会いのためのトークイベント(不定期開催)

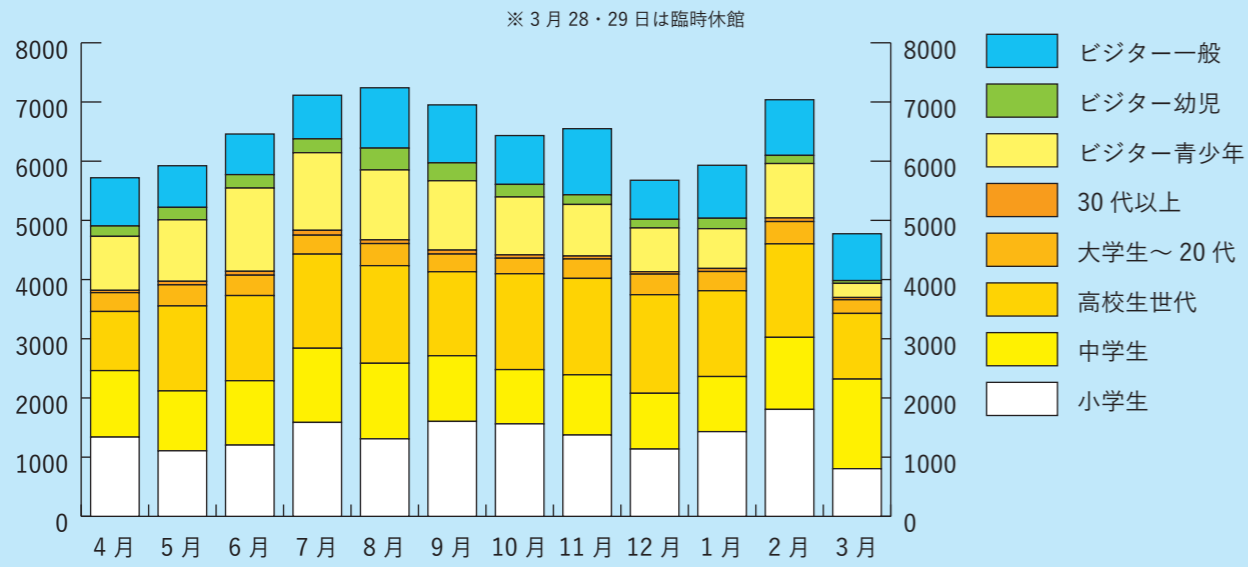
- アクション: 若者の「やりたい」を実現するための活動。月に1回会議をして、取り組む活動を決定します。(対象: アップス登録者)
- クリエイターワーク: さまざまな創作活動を体験するワークショップイベント。(不定期)
- スポーツプログラム: 水曜日と金曜日の16:00から21:00まで、アップスとして地域体育館を利用して、さまざまなスポーツを楽しんでいます。
- 楽しい食卓プロジェクト: 材料の買い出しから調理、食事、片づけまでを行う食事イベント。

世田谷区立希望丘青少年交流センター「アップス」

Access  
〒156-0055 世田谷区船橋 6-25-1-3F  
HP  
<https://ups-s.com/index.html>  
Twitter  
@ups\_setagaya  
Tel  
03-6304-6915  
Fax  
03-6304-6916  
▲HPはこちら

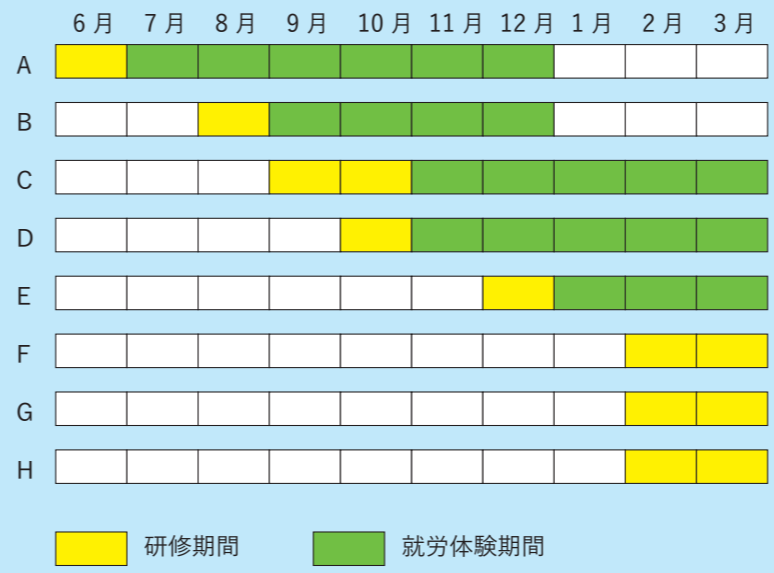


## 統計ポイント 01 月別のべ利用者の推移



## 統計ポイント 06 P-work の参加状況

カフェを活用した就労体験・支援プログラム。研修を修了すると、6か月を上限に就労が可能。(対象：義務教育修了者～39歳)  
2019年度は就労体験として高校生世代の若者が参加。

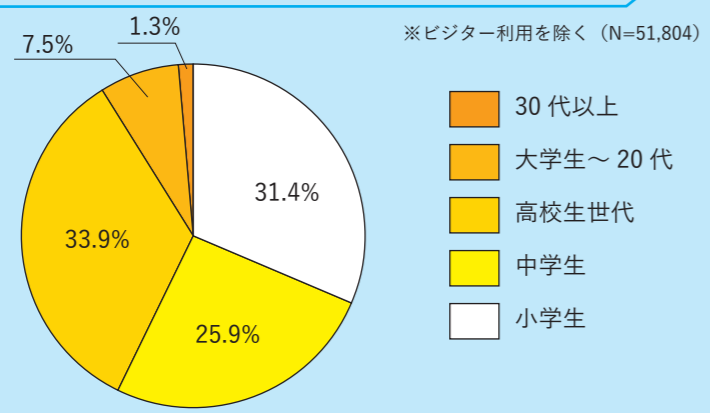


## 統計ポイント 07 学校別登録者数

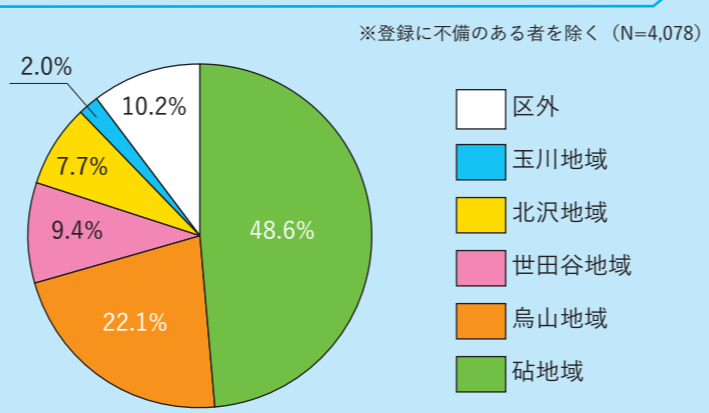
※2019年度の登録者のうち、登録数の多い学校と登録数

小学校	登録数	中学校	登録数
船橋	291人	船橋希望	246人
希望丘	241人	千歳	192人
千歳台	221人	緑丘	91人
経堂	194人	芦花	86人
八幡山	173人	桜丘	61人
高等学校	登録数	大学・専門学校	登録数
都立千歳丘	125人	日本	34人
大東学園	82人	成城	6人
都立芦花	73人	国士館	6人
東京農業大学第一	55人	駒澤・慶應義塾	5人
都立松原	51人	専修・明治	

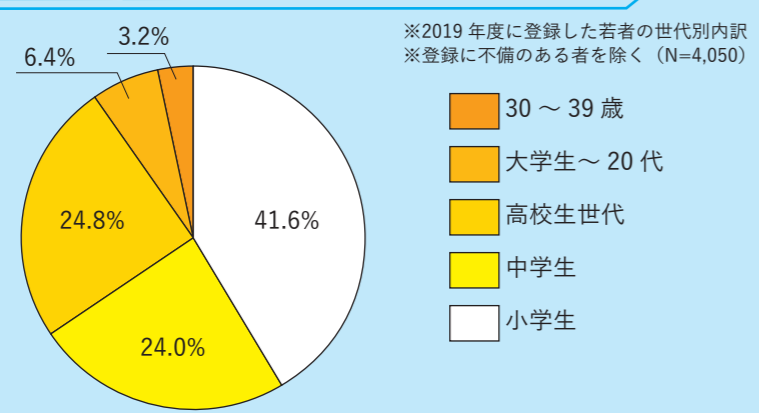
## 統計ポイント 02 利用者の年齢区分



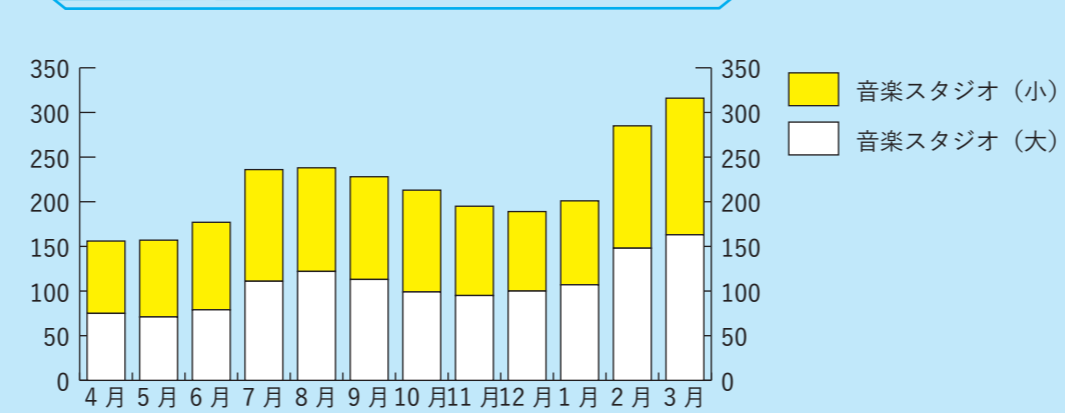
## 統計ポイント 04 利用登録者の居住地域



## 統計ポイント 03 利用登録者の内訳



## 統計ポイント 05 音楽スタジオの利用件数



## 統計ポイント 08 若者の主体的活動

プロジェクト	開催月	参加数
楽しい食卓プロジェクト (49回)	4～2月	643人
食卓プロジェクト特別版	11月	10人
アクション月1会議 (11回)	4～2月	73人
アクション「ドッジボール大会」	4月	65人
アクション「お泊り会」	5月	7人
アクション「映画会」	8月	7人
アクション「過去問演習会」	11月	1人
アクション「マンガ追加アンケート」	12～1月	6人
アクション「おでかけ企画」	12月	3人
アクション「卓球大会」	1月	12人
デュエルマスターズ大会	5月	6人
バルーンアート体験会②	4月	5人
こどもの日ゲリラライブ	5月	15人
自動販売機アンケート	5～6月	
自主ライブ「息ができないライブ」	7月	58人
卓球大会	8月	14人
館内ラジオ放送	9～11月	5人
うたのおもちゃばこ	9月	139人
チョコフォンデパーティー	12月	23人
アップス模試 (6回)	12～1月	54人
弾き語りライブ	1月	43人
アップスギャラリー	3月	5人
アップスフェス「ミニライブ」	3月	28人